

コンソーシアム便り

第7号

平成28年7月19日
工業系高校人材育成コンソーシアム千葉会長 小野祐司
(千葉県立柏高等学校校長)

平成28年6月6日、日本大学生産工学部津田沼キャンパスを会場として平成28年度「工業系高校人材育成コンソーシアム千葉（以下コンソーシアム）・第1回運営委員会及び第1回総会」を開催いたしました。

第1回運営委員会及び第1回総会

会議の内容は、以下のとおりです。

- (1) 報告事項
 - ア 新事務局長の紹介
 - イ 平成27年度（平成28年3月末）各工業系高校の進路状況等について
 - ウ 東総工業高校・高度ポリテクセンター・地元企業・銚子電鉄とのコラボレーション事業について
 - エ ロボットフォーラム2016について
- (2) 議事
 - 第1号議案 平成27年度事業報告及び会計収支決算報告について
 - 第2号議案 平成28年度事業計画（案）及び会計収支予算（案）について
 - 第3号議案 平成28年度会長等の選任について
- (3) 協議
 - 各工業系高校が抱える課題とワーキンググループの設置について



討議の内容を紹介します（抜粋）

(1) 報告事項

報告ーイ 平成27年度各工業系高校の進路状況について

【伊東教諭 茂原樟陽】

千葉県の工業系高校の進路状況について昨年度は68%が就職だった。この数字は全国平均からすると若干多いかと思う。採用試験についてはなかなか良い数字が出ない。数学、国語など決して難しい問題ではないが、千葉県の工業高校の筆記試験結果は他県と比べて明らかに低い。面接試験もまだまだ元気さとか意気込みについては負けている。利点として、県内の高校生は非常に素直で明るい生徒が多い。入社後の伸び率は他県には決して負けてはいない。

【鈴木校長 千葉工業】

昨年度某企業をお伺いした時、入社試験で成績がもう少し上がって欲しいと言われた。本校としても基礎学力の向上に努めている。工業高校はほとんど同様の考えだと思うが基礎学力の向上について非常に気を遣っており、何とかしたいとの思いだ。

【高橋SGL 三井化学】

県内の生徒が県外の生徒と比べ劣るということはない。採用は学力優先ではない。弊社では国語、数学、英語、専門科目の筆記試験を行うが、面接官には試験結果を一切知らせず面接を行い、人を見てもらう。面接で合否を出し、最終的に試験結果と照らし合わせ確認するという手順だ。学力は高いにこしたことはないが、コミュニケーション能力、人間性、挨拶がきちんと出来ることが備わっているか否かが見たいところだ。県内の生徒がこの部分が劣っているわけではないが、県外生徒と比較すると見劣りする生徒が散見される。

【藤平校長 市川工業】

昨年、今年と大学・短大への進学希望者の3割が工業には関係のない商科大学、体育大学の他、文系の学部に進学している。生徒に訳を聞いたところ、「工業はもういいです」との答えだった。理由は数学に限界を感じているとのことで、新たな課題と感じた。

【川島部長 日本自動車大学校】

コンソーシアムを通して県内の大学・専門学校・高等機関・企業と連携し進路指導の独自の取組と一緒に出来れば活躍できる生徒がもっと増えるのではないかな。

報告ーウ 東総工業高校・高度ポリテクセンター・地元企業・銚子電鉄とのコラボレーション事業について

【大木教諭 千葉工業】

事業目的は、脱線事故により経営難に陥っている銚子電鉄を、地元銚子商業高校が募金活動で頑張っている、高度ポリテクセンターから「工業高校でも何か出来ないか」との話からはじまった。銚子電鉄の観音駅での鯛焼きは大変人気が高い。



ここに目をつけて、情報技術科が課題研究で「デキ3」型（銚子電鉄の車両）の型を作成し、デキ3焼きを商品化する予定である。また、電子機械科がデキ3モデルを作り、電気科がLEDソーラーパネルを作った。生徒の感想として、「大変貴重な体験ができた」「情報技術科で铸造ができるとは思わなかった」などがある。ものづくりを支えているのは中小企業の底力だということを実感できた様子だった。この事業を通し、コンソーシアムで力を発揮できるのは課題研究ではないのか。高校が出来ないところに（各企業、関係機関から）支援をしていただけたことで事業が達成出来た。

【藤村所長 高度ポリテクセンター】

平成25年まで青森に在籍した折に感じたことは、工業高校の力を地元の人につなげていきたいとの思いでした。その時の心は3つ、1つは、「大切に作る心」、2つ目は、「元気に作る心」、最後が一番難しい心で、つなげる心です。今回の場合、皆さんの強い意志でつなげようと思ったからつながったと思う。情報技術科の生徒がここまでやることは情報技術と何も関係ないと思うかもしれないがそうではない。後になり情報技術と関係してくる。つなげる気持ちをみんなで作れば何でも出来ると私は思う。

報告ーエ ロボットフォーラム2016について

【藤村所長 高度ポリテクセンター】

柏にある産業振興センター東葛テクノプラザでロボットフォーラムを企画開催することとなった。会期中4回の講演会を開催する。主に産業ロボット以外の講演会を行い、講演の後にロボットの展示が出

来るようにしてあるが、会員の皆様も4回の内1日だけでも展示をしていただきたい。

(2) 議事

第1号議案—平成27年度事業報告及び会計収支決算報告について

1. 運営委員会・総会
 - (1) 平成27年5月29日 第1回運営委員会・第1回総会
 - (2) 平成27年7月7日 第2回運営委員会
 - (3) 平成27年11月16日 第3回運営委員会
 - (4) 平成28年2月4日 第4回運営委員会・第2回総会
2. 事業報告
 - (1) 平成27年9月26日 高校生理科研究発表会(千葉大学)
 - (2) 平成28年2月4日 課題研究発表会(県立現代産業科学館)
 - (3) 平成27年10月17日 産業教育フェアにおける課題研究発表会(イオンモール幕張新都心)
 - (4) コンソーシアム便り発刊
 - 第3号 平成27年7月1日(発刊)
 - 第4号 平成27年9月28日(発刊)
 - 第5号 平成28年1月12日(発刊)
 - 第6号 平成28年3月17日(発刊)
 - (5) 企業見学会
 - 平成27年7月13日 新日鐵住金(株)君津製鐵所(君津市)
 - 平成27年11月16日 JFEスチール(株)東日本製鐵所(千葉市)



【小池理事長 千工会】

一般財団法人千工会は平成24年度から各学校に対して助成を始めた。県予算の厳しい中、教材等の調達のため、使い勝手良く生徒のために使ってほしいと思った。課題研究、総合技術コンクールでは、毎年見るたびに子供達が元気になるのを見て、目の輝きが違ってきたと実感した。工業系高校8校全ての科で課題研究に取り組み、発表の場で成果を競い合わせ、更に進歩させてもらいたい。

【小野会長】

平成27年度の千葉大学における高校生理科研究発表会で3校12チームが発表した。

【田辺特任教授 千葉大学】

今年度は9月24日(土)に開催される予定だ。工業高校の生徒にも参加頂き発表する場を設けたい。また大学、企業の皆様にもご支援をいただきたい。

第2号議案—平成28年度事業計画(案)及び会計収支予算(案)について

1. 運営委員会・総会他
 - (1) 平成28年6月 第1回運営委員会・総会
 - (2) 平成28年9月 ワーキンググループ会議
 - (3) 平成28年10月 ワーキンググループ会議
 - (4) 平成28年11月 ワーキンググループ会議
 - (5) 平成29年2月1日 第2回運営委員会・総会
2. 事業計画
 - (1) 平成28年9月 高校生理科研究発表会への参加
 - (2) 平成29年2月1日 課題研究等発表会(県立現代産業科学館)
3. 情報発信・広報事業
 - (ア) 産業教育フェア(イオンモール幕張新都心)
 - (イ) 小中学校への理解促進の検討
 - (ウ) コンソーシアム便り発刊
4. 教職員研修

【小野会長】

教職員研修についてだが、これからは研究の側面を工業高校の先生方には伸ばしていただきたい。研究の指導をどうすればうまく指導出来るのか、評価をどうすれば良いのか等の研究も併せてやって欲しい。

(3) 協議

各工業系高校が抱える課題とワーキンググループの設置について

【小野会長】

これまで「求められる工業高校生像、求められる工業高校像」についての協議の結果、2つのワーキンググループ、1つは自立した社会人育成。2つ目が学力向上について、単に進学するのではなく、進学後どのように基礎学力、発表する力等々を伸ばしていくかを議論するグループです。

【鈴木校長 千葉工業】

自立した社会人育成に於いても学力向上を入れてもらいたい。子供達を伸ばしていくためには学力も必要だし、社会性も必要だ。自立した社会人育成の中でもこれ位の最低必要な基礎学力は付けて欲しいという目途をはっきりさせるのも1つの方法かと思う。

【藤平校長 市川工業】

昨年から本校は朝学習を始めた。10分間の学び直しである。今年はテスト期間以外、毎日やることにした。結果、ほとんど遅刻はなくなり、圧倒的に変わった。このような具体的な活動の中で、テキストをどのようなものにするか、ワーキンググループで研究をしていただきたい。

【關校長 京葉工業】

先週、台湾からの学生を受け入れた。彼らは英語も日本語も北京語も当たり前話せる。これらを踏まえ日本の工業高校の子供達をどのように教育し、これから日本をどうしていくのかという視点をぜひ持ってほしい。グローバルな視点、もっと大きな目でこれからどうするのか、取り組んでもらいたい。

【齊藤校長 茂原樟陽】

社会人育成とか基礎学力のスタンダードがわからない。高校を出るまでにどこまで教えるのかを明確にできれば、1, 2, 3年の段階別指導方法が出てくる。そのためまず目標値を設定したい。生徒も多様化しており、専門高校卒業までには“ここまで確実に身につけてほしい学力”という標準的な目標値を示してもらえれば助かる。

【小野会長】

今後、ワーキンググループをどのようにしていくのかだが、例えば教材とか、やり方とか、どの様な到達目標にするのか、どのような評価をしていくのかなど、いろいろあると思う。子供達をどこに視点を見据えてどのように育てるのかを考えながらワーキンググループをスタートさせていきたい。会員の皆様もグループに参加いただいて有意義な議論をお願いしたい。

【工業系高校人材育成コンソーシアム千葉事務局】

事務局長（千葉工業高校教頭）田口 英彦

TEL 043-264-6251 FAX 043-268-5524